

1047名JR不採用問題 解決総決起集会新潟県集会開く



国鉄新潟

NO. 703
発行
10・8月17日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
関川 和彦
編集責任者
教 宣 部

県内各地から
160名結集

「一〇四七名JR不採用問題・解決総決起集会」新潟県集会は23年の支援に感謝をこめて、八月一日一三時三〇分から新潟市自治労会館で開催され県内各地から労働組合・民主団体など全体で一六〇名が結集しました。



集会は加藤晋介弁護士（記念講演・函館、音威子府闘争団、全動労争議団の代表の方々から訴えなどあり素晴らしい決起集会になりました。主催者代表では宮下元県評議長、国労本部から栗原執行委員が、それぞれあいさつしました。

本当に良かった 宮下元県評議長あいさつ



主催者代表あいさつは、宮下元県評議長からありました。

1047名問題は、組合員として何を悪いことをしたのでしょうか。苦しんでいる人々は、何も悪いことをしていない。社会正義に照らしても許せないことだ。何のために差別を経験させられたのか、考えていかなければならない。

国労への組合弱体化を狙ったものだ。地労委では勝利している。しかし、中労委への闘いに、さらに裁判へと闘いは長期化になっていった。不当労働行為が成立したが中労委へ。地労委ではほとんど勝利している。世論を無視して中労委への闘いへとなっていった。自民党が後押しする政治的背景があった。

しかし、23年の闘いがあった。みなさんの支援があり、そして、共闘組織の支えがあり勝利へとつながった。当事者と家族を含む方々に心から御苦勞様でしたとメッセージを送りたい。

政治的な動きに多くの支援団体が発足した。地域、共闘、単産、民主団体の支援の輪は、組合員の権利を守るだけでなく大きな勝利へと結びつけた。地域行動に参画していくこと。この闘いを引き継いでいくこと。共闘は、中心組織、争議団の組合方針について、支援団体は全面的に支援していくこと。労働組合、争議団の方針について協力していく、支援していくことが基本だ。

本当に良かった ということを肝に銘じたい集會にしたい。



物心両面の 支援体制に感謝

国労本部から栗原執行委員は「心から御礼を申し上げる。物心両面を含めてた支援体制に感謝。」



四党合意から今年で一〇年が経過した。国労内部については、臨時大会で解決案の受託を決定した。闘争の中心は闘争団と家族、それを支援した共闘組織。雇用については、これからの闘い。世論喚起を大きくしていくために各県で国鉄争いの報告集会を開催している」とあいさつがありました。

その後、加藤晋介弁護士より約一時間、記念講演があり、つづいて函館闘争団の坂野団員、音威子府闘争団の関根団員、全動労争議団の末田団員からそれぞれ訴えがありました。

カンパ

7万1千25円

参加者へのカンパを要請し、7

全面解決に向けて がんばってください

万1千25円集まり闘争団へ、カンパを贈呈しました。

閉会あいさつでは、中村洋二郎弁護士から「すごい闘いだっただ。国家的不当労働行為だった。地労委の二〇〇を越す命令。それを従わない人権蹂躪をやってきた。多くの自殺者。今までの闘いは、みなさんの闘いと、この闘いが結合して闘って来たことを思い浮かべ、闘ってきた当事者、家族の苦しみ、それを支えてきた人間の連



帯は財産だと思う。長い闘いだが雇用の確保を。これから全面解決に向けてがんばってください」とあいさつしました。



最後に、建交労の杉崎委員長から力強い団結がんばろうで終了しました。

函館闘争団 坂野団員

23年間、力強い支援に函館を代表して御礼を申し上げる。各地域を回って23年間の御礼を申し上げるところ、さまざまな事情があって、改めて伺いたい。20名で函館闘争団はスタートしたが、3名が亡くなっている。秋元団員は2005年に亡くなった。1992年に発行した、冊子は5年経った状況が記載されている。

家族は一緒に、おとうさんと闘ってきて良かった、解決の日を見ることができて良かった。感謝している。36闘争団が、ひとつになったことが大きな力になり解決へ向かった。64歳の平均年齢になった。これから生活に不安だが、闘争団17名中、3名がJRへの雇用適格者。この3名が再雇用できるまで闘っていく。



音威子府闘争団 関根団員

4月9日の政治的和解から数ヶ月がたったが本当に喜べない。雇用問題が解決して二度の喜びとなる。23年間の闘いで、ここまでたどり着いたのは当事者の団結、家族の思いがあった、それが力になった。家族、親戚の力があつたからだと思う。JRの国労組合員の支えがあったこと。厳しい労働条件の中でも激励してくれたことが支えになったこと。共闘の仲間の支えがあったから23年間闘いぬくことができた。

音威子府闘争団は、一番小さい村の闘争団だ。村の人口は1500人、国労闘争団・家族は160人。結成当時から働く場が無く出稼ぎへの労働となった。しかし、それから自活生活ができるようになっていった。闘争団33名中、23名が雇用を希望している。もう一度JRの職場に戻りたい、再雇用を希望している。雇用問題について解決するまで奮闘していく決意だ。多くの仲間を支えられてきた。多くの仲間と出会えたのは財産、宝だと思う。この闘いで経験したことを、みなさんと共有してこれからも頑張っていく決意だ。



全動労争議団 末田団員

63歳になった。全動労では63名で争議団を結成し7名が亡くなった。58名が頑張っている。四者四団体の団結が勝利へ。92年の秋に新潟に初めてオルグに入った。不安だったが皆さんから支援があった。この闘いから、いろんな人達と出逢えることができたし、大きな支えとなった。闘いの中から何を教訓にしていくのか。この闘いから、どんなかたちで、かえしていくのか。JRの中に闘いをどうつくっていくのか。公共交通機関としての役割を、果たしていくのか、運動を進めていかなければならない。雇用についてJRへ2名を戻していく。何としても解決していく。JRの中に強大な組織をつくって闘いを進めていく。



文芸特集は、「鉄道川柳」の平成二二年一月号の山脈集推薦作品を紹介いたします。文芸特集はどうでしょう。か？
「国鉄新聞」に、「国鉄新潟の文芸特集が記載されていました。大変驚いています。文化運動は大切な役割を担ってききました。今後、この紙面の中で宣伝していきたいと思えます。
今年、鉄道川柳人連盟の全国大会が仙台で開催され、国鉄うたご会祭典も仙台で九月に開催されます。国労の文化運動は活発に運動が展開されています。みなさんの身近なところでも文化運動が地域の中で取り組まれていると思えます。ぜひ活動

編集後記

状況なども地本教宣部へお寄せください。よろしくお願ひします。
今回は、国鉄闘争報告集を記載しましたが、次号にも、加藤弁護士の記事講演の内容を特集する予定です。
職場、地域など、情報がありましたら、どんな小さなことでも地本教宣部へお寄せください。よろしくお願ひします。



山脈集推薦作品

北川 拓治 選

闘いの沈む根本を少年はなさない	上田 千路	真相は雲がなかつた生い茂る	長谷川 静月
戦争の教訓教者だけが知る	森本 吉則	虹よりも大きな小便を飛ばす	木下 草風
無い職をのんだポストよ秋の月	辻 敬子	鹿の角が通化の色となる	中塚 礎石
馬をいて駈けたい腕へ手を伸ばす	水津 妙子	どんぐりが転がる道がなくなった	山中たけし
辛口の地酒を嗜む	今村 寿子	人間のできごころがここに居る	長谷川 竜太
黒でんわの中のかもめの鳴き声が	桜 風子	ころもどりの強さもなくせいる	三村 悦子
燈元を委ねられから足踏車	兼行 幸枝	近道をしては私の影を踏石	花房 桃風
棚が壊れているとこ間たろう	木下 草風	友達の身体検査は年賀状	藤井 敬明
空想はこまめしきあやかし	岡川 洋々	生涯を未完で終わる流れ星	太田 健次郎